

令和8年 10 月 29 日

第2回国際文芸フォーラム

12 月 1 日から 4 日にかけて多彩な文芸・翻訳プログラムを実施

～12 月 3 日には小川洋子氏、川上弘美氏、伊坂幸太郎氏ら豪華ゲストが集結～



文化庁翻訳コンクール授賞式記念
第2回国際文芸フォーラム
Commemorating the Award Ceremony for the JLPP International Translation Competition
The 2nd Japan International Literary Forum

2026
12/3^{THU} 16:00
神田スクエアホール
(2階)

第11回文化庁翻訳コンクール授賞式

シンポジウム第I部
声が生まれるところ
小川洋子 + 川上弘美 + マックス・ポーター
モデレーター：辛島デイヴィッド

シンポジウム第II部
どうやって海外の読者に届けるのか？～作家と海外編集者の対話～
伊坂幸太郎 + リズ・フォーリー
モデレーター：三枝亮介

司会進行：米倉紀之子

 

文化庁は、我が国の文芸作品等を海外に発信していくために重要となる翻訳家の発掘・育成を目的に実施する「文化庁翻訳コンクール」の授賞式やシンポジウム等で構成する「国際文芸フォーラム」を開催しています。

第2回目の開催となる今年度は、12月1日から4日にかけて、翻訳ワークショップやセミナー、シンポジウム等、数日間にわたる多角的なプログラムにスケールアップして展開します。

このうち、12月3日には、第11回文化庁翻訳コンクール授賞式とともに、世界で活躍する作家や編集者等をお招きした記念シンポジウムを開催します。

シンポジウム第I部では、作家の小川洋子氏、川上弘美氏の他、今回初来日となる英国の作家で 2025 年国際ブッカー賞の審査委員長を務めたマックス・ポーター氏が登壇し、辛島デイヴィッド氏の進行で議論を行います。

第II部では、作家の伊坂幸太郎氏と、伊坂氏の英訳出版を担当したリズ・フォーリー氏が登壇し、株式会社 CTB の三枝氏がモデレーターを務めます。

さらに、11月中旬から12月上旬にかけて、出版関係団体や海外の機関との連携プログラムも開催いたします。

●「第11回文化庁翻訳コンクール授賞式&記念シンポジウム」開催概要

【日時】令和8年12月3日 開会 16:00 ※開場 15:00

【会場】神田スクエアホール(2階)
東京都千代田区神田錦町二丁目2番地1
<https://kanda-square.com/access/>

【定員】400 名

【入場料】無料

【言語】日本語／英語(同時通訳あり)

【スケジュール(予定)】

16:00～16:50 第11回文化庁翻訳コンクール授賞式

17:00～18:00 シンポジウム第Ⅰ部「声が生まれるところ」

小川洋子(作家) + 川上弘美(作家) + マックス・ポーター(作家)

モデレーター: 辛島デイヴィッド(早稲田大学教授、翻訳家)

18:15～19:15 シンポジウム第Ⅱ部

「どうやって海外の読者に届けるのか?～作家と海外編集者の対話～」

伊坂幸太郎(作家) + リズ・フォーリー(編集者)

モデレーター: 三枝亮介(株式会社CTB)

※第11回文化庁翻訳コンクールの受賞者と、第12回文化庁翻訳コンクールの対象言語や課題作品は後日発表いたします

※登壇者は予告なく変更となる可能性があります

【一般申し込み方法】(抽選制)

参加ご希望の方は、下記リンクの申し込みフォームよりお申込みください。

<https://teket.jp/20510/82144>

申し込み期間: 令和8年10月29日～11月9日

抽選結果: 11月13日頃にメールにて通知

【文化庁「活字文化のグローバル展開推進事業」事務局】

一般お問い合わせ: jlpp_office@jlpp.bunka.go.jp

取材申し込み先: PR@vipo.or.jp

●「第2回国際文芸フォーラム」その他のイベント

【翻訳家等育成プログラム(出版・翻訳関係者向け)】

- 12月1日 第11回文化庁翻訳コンクール受賞者向け翻訳オリエンテーション
※一般公募はございません
- 12月2日、4日 翻訳ワークショップ・セミナー
※後日、事業公式サイト(<https://www.jlpp.bunka.go.jp/>)にて募集受付

【連携企画】

本フォーラムでは、国際的なイベントとしてさらなる発展と広がりを目指し、諸外国の文化機関、出版社等が開催する文芸イベントと連携します。

- 11月17～19日 TOKYO INTERNATIONAL RIGHTS MEETING 2026(主催:JPIC)
- 11月20日 「EU・日本の文学交流—翻訳と創造をめぐる対話」
(主催:駐日欧州連合代表部)
※出版・翻訳関係者プログラム／招待制
- 11月27日 「日伊ことばの架け橋賞」授賞式(主催:伊日財団)
- 12月3～5日 日韓作家ダイアログ 2026
(共催:一般社団法人 K-BOOK 振興会／集英社／小学館／文学と知性社)
- 12月4日 『悲しみは羽根をまとして』著者マックス・ポーター来日記念トークイベント
(主催:早川書房、聞き手:西加奈子(作家))

※各企画の詳細は下記 URL よりご覧いただけます

https://www.jlpp.bunka.go.jp/literaryforum/2026_Dec/

(第2回国際文芸フォーラム特集ページ)

【文化庁担当】文化庁文化経済・国際課

藤田、堀口、吉川

【電話】03-5253-4111(代表)

03-6734-4898(直通)

文学がつなぐ世界、 世界が映す文学

第2回を迎える「国際文芸フォーラム」は、
世界から多彩なゲストを招き、
さらなる進化を遂げて開催されます。

文化庁翻訳コンクール授賞式記念

第2回 国際文芸フォーラム

Commemorating the Award Ceremony for
the JLPP International Translation Competition
**The 2nd Japan International
Literary Forum**

16:00-16:50

第11回文化庁翻訳コンクール授賞式

17:00-18:00 シンポジウム第I部
「声が生まれるところ」

小川洋子 作家

川上弘美 作家

マックス・ポーター 作家

モデレーター: 辛島デイヴィッド 早稲田大学国際学術院教授
作家・翻訳家

18:15-19:15 シンポジウム第II部
「どうやって海外の読者に届けるのか?」
～作家と海外編集者の対話～

伊坂幸太郎 作家

リズ・フォーリー Harvill
出版ディレクター

モデレーター: 三枝亮介 株式会社CTB代表取締役

司会進行: 米倉紀之子 俳優

※登壇者は予告なく変更になる場合があります

2026
12/3 THU 16:00
[15:00開場]

神田スクエアホール(2階)

申込方法(抽選制)
QRコードからアクセスの上、専用フォームよりお申し込みください。
申込期間 | 10/29(木)～11/9(月) 抽選結果 | 11/13(金)頃にメールにて通知



シンポジウム第Ⅰ部

声が生まれるところ



小川洋子
Yoko Ogawa

1962年岡山市生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科卒業。1988年『揚羽蝶が壊れる時』で海燕新人文学賞を受賞してデビュー。1991年『妊娠カレンダー』で芥川賞受賞。2004年『博士の愛した数式』で読売文学賞と本屋大賞受賞、『ブラフマンの埋葬』で泉鏡花文学賞受賞。2006年『ミーナの行進』で谷崎潤一郎賞受賞。2007年フランス芸術文化勲章シュバリエ受章。2013年『ことり』で芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2020年『小箱』で野間文芸賞受賞。2021年菊池寛賞、紫綬褒章受賞。2023年日本芸術院賞受賞。2026年『サイレントシンガー』で毎日芸術賞受賞。その他、主な著書は『葉指の標本』『密やかな結晶』『アンネ・フランクの記憶』『猫を抱いて象と泳ぐ』『劇場という名の星座』など。



川上弘美
Hiromi Kawakami

1958年東京都生まれ。1994年「神様」で第一回バスカル短篇文学新人賞を受賞しデビュー。1996年「蛇を踏む」で芥川賞、1999年「神様」でドゥマゴ文学賞、紫式部文学賞、2000年『潮れる』で伊藤整文学賞、女流文学賞、2001年『センセイの鞆』で谷崎潤一郎賞、2007年『真鶴』で芸術選奨文部科学大臣賞、2015年『水声』で読売文学賞、2016年『大きな鳥にさらわれないよう』で泉鏡花文学賞、2023年『恋ははかない、あるいは、プールの底のステッキ』で野間文学賞を受賞。その他に『ニシノユキヒコの恋と冒険』『古道具 中野商店』『ざらざら』『ハツキさんのこと』『どこから行っても遠い町』『機嫌のいい犬』など著書多数。『真鶴』はJLPPにおいて、英語、仏語、独語、露語に翻訳され、現在『センセイの鞆』など数多くの作品が世界中の言語で翻訳出版され、国際的に高く評価されている作家である。



マックス・ポーター
Max Porter

1981年生まれのイギリス人作家。著書には「サンデー・タイムズ」紙のベストセラー第1位にもなった『Shy』、ブッカー賞のロングリストに選出された『Lanny』、そして数々の賞を受賞した『悲しみは羽根をまとうて』（原題: *Grief is the Thing with Feathers*）がある。彼の作品は38言語に翻訳されている。BAFTA賞にノミネートされた初の映像作品『STEVE』は、2025年10月に公開された。新作小説『Burn and Rave』は2027年に刊行予定。現在、英国の刑務所でライター・イン・レジデンスを務めるほか、サウスバンク・センターのアソシエイト・アーティストでもある。以前はGranta Booksの編集ディレクターを務め、当時の担当作家にはハン・ガン、エレノア・キャトン、レベッカ・ソルニットらがいた。

モデレーター



辛島デイヴィッド
David Karashima

作家・翻訳家・早稲田大学国際学術院教授。日本文学の翻訳や編集、文芸交流イベントの企画に幅広く携わる。ブーシキン・プレスの現代日本文学中編小説シリーズで共同責任者。著書に『Haruki Murakamiを読んでいるときに我々が読んでいる者たち』（みすず書房）、『文芸ビープル「好き」を仕事にする人々』（講談社）など。

2026.12.3 [THU] 16:00 (15:00開場)

神田スクエアホール（2階）

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町二丁目2番地1

■都営新宿線「小川町駅」B7出口徒歩3分 ■東京メトロ丸の内線「淡路町駅」B7出口徒歩3分
■東京メトロ半蔵門線「神保町駅」A9出口より徒歩5分 ■JR各線「神田駅」西口より徒歩10分

文化庁は、日本の文芸作品等を海外に発信していくために重要となる翻訳家を発掘・育成することを目的に実施する「文化庁翻訳コンクール」の授賞式やシンポジウム等で構成する「国際文芸フォーラム」を開催しています。

今年度は、12月3日に第11回コンクールの授賞式を開催するとともに、世界で活躍する作家や編集者をお招きし、記念シンポジウムを開催します。シンポジウム第Ⅰ部では、日本の文学シーンを牽引する作家、小川洋子氏、川上弘美氏に加え、英国の作家で2025年国際ブッカー賞の審査委員長を務めたマックス・ポーター氏を迎え、辛島デイヴィッド氏のモデレーターのもと語り合います。続く第Ⅱ部では、世界的な作家である伊坂幸太郎氏、伊坂氏の英訳出版を担当した出版ディレクターのリズ・フォーリー氏、株式会社CTBの三枝亮介氏が登壇します。

さらに今年度は翻訳家向けプログラムや、出版関連団体等との連携イベントなど、数日間にもわたり多角的なプログラムを展開予定です。国内外の豪華ゲストが一堂に会する特別な機会です。ぜひご参加ください。

主催 | 文化庁
お問い合わせ | 文化庁「活字文化のグローバル展開推進事業」事務局 E-mail: jllp_office@jllp.bunka.go.jp

シンポジウム第Ⅱ部

どうやって海外の読者に届けるのか？

～作家と海外編集者の対話～



伊坂幸太郎
Kotaro Isaka

1971年千葉県生まれ。東北大学法学部卒業。2000年『オーディエンスの祈り』で第5回新潮ミステリー倶楽部賞を受賞しデビュー。『アヒルと鴨のコインロッカー』で第25回吉川英治文学新人賞、短編「死神の精度」で第57回日本推理作家協会賞を受賞。2008年『ゴールデンスランバー』で第21回山本周五郎賞、第5回本屋大賞、2014年『マリアビートル』で大学読書人大賞、2017年『AX』で静岡書店大賞（小説部門）、2020（令和2）年『逆ソクラテス』で柴田錬三郎賞を受賞した。著書は約19カ国で翻訳出版されている。『マリアビートル』は、2022年、ブラッド・ピット主演『プレット・トレイン』として映画化された。



リズ・フォーリー
Liz Foley

ペンギン・ランダムハウスUK傘下のHarvillでアソシエイト・パブリッシング・ディレクターを務める。Harvillで働く前には、Vintage Classicsシリーズの再始動を手がけた。Harvillは長い歴史を持つ出版レーベルで、村上春樹、カール・オウェ・クナウスゴール、ウンベルト・エーコ、ヘニング・マンケルといった、国際的に高い評価を得ている作家たちの作品を出版してきた。同レーベルは、犯罪小説やスリラーから、歴史小説、ファンタジー、文芸小説、ホラーまで、幅広いジャンルのフィクションを出版し、世界中から読者を夢中にさせる物語を届けることを目指している。Harvillが出版する日本人作家には、村上春樹、小川洋子、伊坂幸太郎、桐野夏生、八木詠美などがある。

モデレーター



三枝亮介
Ryosuke Saegusa

編集者、映画プロデューサー。作家エージェンシー株式会社CTB代表取締役。出版社勤務を経て、2017年株式会社CTBを設立。2022年、アメリカ映画『プレット・トレイン』のエクゼクティブ・プロデューサーを務める。現在は、伊坂幸太郎、蓮実重彦などのエージェント／編集者であり、ロバート・秋山「クリエイターズ・ファイル」のプロデュースも行う。



司会進行: 米倉紀之子 Yonekura Kishiko

横浜市生まれ。関西学院大学文学部卒、岡山放送のアナウンサーとして3年間活動後、舞台俳優の道へ。文学座附属演劇研究所、昂演劇学校を経て、1996年より劇団昂に在籍。
出演舞台に「どん底」(劇団昂)、「嘘」(俳優座劇場プロデュース)など。

翻訳家等育成プログラム ＊出版・翻訳関係者向けプログラム

12/1(火)	12/2(水)、12/4(金)
第11回文化庁翻訳コンクール受賞者向け 翻訳オリエンテーション ※一般公募はございません	翻訳ワークショップ・セミナー ※後日、応募受付いたします。

連携企画

11/17(火)～19(木)	11/20(金) ※出版・翻訳関係者プログラム/招待制
TOKYO INTERNATIONAL RIGHTS MEETING 2026 主催：一般財団法人 出版文化産業振興財団 (JPIC)	EU・日本の文学交流 一翻訳と創造をめぐる対話 主催：駐日欧州連合代表部
11/27(金) 17:30～19:00	12/3(木)～5(土)
第5回 「日伊ことばの架け橋賞」授賞式 主催：日伊財団	日韓作家ダイアログ2026 共催：一般社団法人K-BOOK振興会／ 集英社／小学館／文学と知性社
12/4(金) 19:00～20:30	
『悲しみは羽根をまとうて』 著者マックス・ポーター来日記念 トークイベント 主催：早川書房 聞き手：作家・西加奈子	※詳細・申し込み方法等は QRコードよりご確認ください▶

